マナビエ
MANABIE

記述の設計図　第2部 根拠を見つける

U02　筆者の言いたいことの目印

アドバンス

対象：高校2年・偏差値50

1. 要点（ルール）
2. 例題　評論「自分の顔は見えない」
3. 練習1・練習2（解答らんつき）
4. 解答と採点表

要点　言いたいことの目印のルール

R02-1　主張・強調表現

当為（～べきだ・～ねばならない）、勧誘（～しよう）、婉曲な断定（～ではないか・～ではないだろうか）、反語（～でよいのだろうか）、強調（重要・必要・こそ・実は・問題は）。一文全体を主張として扱う。

R02-2　主体の確認（だれの主張か）

「～と言われる」「～と考えられがちだ」「～べきだという考えは、もっともらしい」は一般論・通念の紹介であり、筆者の主張とはかぎらない。逆接のあとで退けられることが多い（傾向）。主語と文末で主体を確かめる。

R02-3　具体と抽象の往復

具体例は抽象的な主張を支える材料。主張は例の前・後ろ・両方に置かれる。まとめ言葉（つまり・このように・要するに）の後ろは主張のことが多いが、例の内部の要約にとどまることもある（傾向）。抽象度が最も高い文を主張とみなす。

R02-4　問題提起と結論

「なぜ～のだろうか」という問題提起の答えは、数段落あとに置かれることが多い。答えを見つけたら問いと照合し、問いの語（なぜ／何か）に正対しているかを確かめる。

R02-5　定義

「Aとは〇〇である」「Aというのは〇〇だ」＝キーワードについての筆者の結論。辞書的な意味と異なる独自の定義こそ、記述の中心要素になりやすい。「～とは思わなかった」などの「とは」は定義ではない。

R02-6　目印から要素表へ

目印の文を要素表に移し、段落番号と目印の種類（主張・まとめ・結論・定義・否定される通念）を記す。否定される通念は、答えの中で「～ではなく」の形で対比要素として使える。

R02-7　採点の目安

中心4点・それを支える要素3点・前提や対比2点・形1点。通念を主張と取りちがえる、具体例のまま書く、のは大きな失点になる。

ルールの番号（R02-〇）は、講座全体の通し番号です。動画・Webページ・このPDFで同じ番号を使っています。

例題　評論「自分の顔は見えない」

① 私たちは、毎朝鏡の前で髪を整え、出かける前にもう一度、自分の顔をたしかめる。写真に写った自分の表情が気に入らず、何度も撮り直すこともある。なぜ、私たちは、自分の顔をこれほど気にするのだろうか。

② 考えてみれば、ふしぎなことがある。自分の顔は、自分ではけっして直接見ることができないのだ。鏡に映る顔は左右が反対であり、写真の顔は、過ぎ去った一瞬を切り取ったものにすぎない。私たちが毎日のように他人に見せている、いま動いているこの顔を、私だけが見ることができない。

③ 一方、他人は、私の顔をいつでも見ている。私が気づかないうちに浮かべた不安げな表情も、ほんの一瞬のこわばりも、向かいあう相手にはそのまま見えている。相手は、私の顔を見て、私がいまどんな気持ちでいるのかを読みとり、それに応じて話し方を変える。

④ 顔とは、自分のためにあるものではなく、他者に向けて差し出されているものなのである。

⑤ そう考えると、顔の意味もまた、私ひとりで決めることはできない。同じほほえみが、ある人には親しみとして、別の人にはごまかしとして受けとられる。顔に何が浮かんでいるかを最終的に読みとるのは、私ではなく、私を見る他者のほうなのだ。

⑥ 私たちが自分の顔を気にするのは、単に見た目を気にしているからではない。自分には見えない場所で、自分の意味が他者によって読みとられていることを、どこかで知っているからである。鏡をのぞきこむのは、他者のまなざしに映る自分を、少しでも先回りして確かめようとするふるまいなのだ。

⑦ だとすれば、顔を整えることは、他者とかかわるための準備でもある。整えられた顔は、他者への小さなあいさつなのである。自分の顔を気にすることを、見えっぱりと切り捨てるべきではないだろう。

問　――線部「なぜ、私たちは、自分の顔をこれほど気にするのだろうか」という問いに対する筆者の答えを、本文全体をふまえて百字以内で説明せよ。

解き方

1. **手順1　問題提起に Q**
   ①段落末の「なぜ～のだろうか」は問題提起。答えはすぐ後ろではなく、⑥段落「～のは、単に～ではない。～からである」にある＝問いと答えが五段落はなれている（R02-4）。

2. **手順2　定義の目印**
   ④段落「顔とは、自分のためにあるものではなく、他者に向けて差し出されているものなのである」＝キーワード「顔」の筆者独自の定義（R02-5）。答えを支える中心の前提。

3. **手順3　否定される通念**

⑥段落「単に見た目を気にしているからではない」、⑦段落「見えっぱりと切り捨てるべきではない」＝通念を退けている。答えの中では「～ではなく」の対比に使える（R02-6）。

4. **手順4　論理をつなぐ**

②：自分の顔は自分では直接見られない → ④：顔は他者に差し出されている → ⑤：顔の意味は他者が読みとる → ⑥：見えない所で読みとられる自分を、先回りして確かめようとする。

5. **手順5　抽象化と照合**

鏡の左右・写真・ほほえみは具体例なので書かない。最後に「なぜ」に正対しているか（「～から。」で終わるか）を問いとならべて確かめる。

要素表（材料を集める）

要素	中身	根拠	入れる？
答え（中心）	自分に見えない所で読みとられる自分の意味を、先回りして確かめようとする	⑥	◎ 入れる
定義（前提）	顔は自分のためではなく、他者に向けて差し出されているもので、その意味は他者が読みとる	④⑤	◎ 入れる
出発点	自分の顔は自分では直接見ることができない	②	○ 入れる
否定される通念	単に見た目を気にしている／見えっぱり	⑥⑦	△ 字数があれば「～ではなく」で
具体例	鏡の左右・写真・同じほほえみ	②⑤	× そのまま書かない

模範解答

模範解答（百字以内）　89字／100字以内

顔は自分では直接見ることができず、他者に向けて差し出されていて、その意味も他者によって読みとられるので、自分に見えない所で読みとられている自分を、先回りして確かめようとするから。

採点表

採点表（要素ごとの配点）	点
中心：見えない所で他者に読みとられる自分を、先回りして確かめようとする	4点
定義：顔は他者に向けて差し出されたもので、意味は他者が読みとる	3点
出発点：自分の顔は自分では直接見ることができない	2点
文末が「～から。」で問いに正対・具体例を書いていない	1点
合計	**10点**

減点の型（こう書くと）	何点になる？ なぜ？
「見た目をよく見せたいから。」	⑥段落で「単に見た目を気にしているからではない」と退けられた通念。0点。
「顔とは、他者に向けて差し出されているものだから。」	定義だけで、「気にする」こととのつながり（⑥）が無い。10点中3点。
「鏡に映る顔は左右が反対で、写真は一瞬にすぎないから。」	具体例のまま。出発点の要素として2点中1点。
百一字以上	字数超過。採点対象外になることが多い。

練習1　評論「手順にならないもの」

① 何かをうまく行うための手順を、あらかじめ文章にまとめておく。マニュアルとは、そういうものである。マニュアルがあれば、経験の浅い人でも、だれがやっても同じ結果が得られる。工場や店で、マニュアルが大きな力を発揮してきたのはそのためだ。

② ところが、人の世話をする仕事、すなわちケアの場面では、マニュアルがしばしば思うように働かない。

③ ある介護施設で、食事のときに「おいしいですか」と声をかけるよう決めたことがあった。たしかに、その声かけをよろこぶ人は多かった。しかし、ある女性は、声をかけられるたびに箸を置いてしまった。あとでわかったのは、その人が若いころ、食事中に話すことをきびしく禁じられて育ったということだった。決められた声かけは、その女性にとっては、長年守ってきた食卓の静けさを乱すものだったのである。また、同じ人でも、体調のよい日にはよろこんだ言葉に、気分のすぐれない日には顔をくもらせることもあった。

④ 同じ言葉が、相手によって、また同じ相手でも日によって、助けにもなれば重荷にもなる。ケアにおいて何が正しいかは、目の前の相手の、その時の状態を抜きにしては決まらないのである。

⑤ だから、ケアをする人に求められるのは、決められた手順を正しくくり返すことではない。相手をよく見て、相手の小さな変化に応じて、そのつどふるまいを変えていくことである。手順どおりにふるまったのに相手を傷つけてしまったとき、マニュアルは、なぜそうなったのかを教えてはくれない。マニュアルは、その出発点にはなっても、ゴールにはならない。

⑥ ケアとは、相手に何かをしてあげることである以上に、相手に応じつづけることなのかもしれない。そこでは、正しさは手順の中にではなく、相手とのやりとりの中にある。

問　――線部「食事のときに『おいしいですか』と声をかけるよう決めた」とあるが、この例を通して筆者はどのようなことを述べようとしているか。具体例を用いずに百字以内で説明せよ。

① 要素表を書こう

材料（目印の種類も書く）	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40
									50										60
									70										80
									90										100

100字以内（1マスに1字。句読点も1字）

練習2　評論(要約)「「役に立つ」という物差し」

① 新しいことを学ぼうとするとき、私たちはしばしば「それは何の役に立つのか」と問う。限られた時間を使う以上、役に立つことから学ぶべきだという考えは、もっともらしく聞こえる。

② 問題は、「役に立つ」という判断が、いつも前もって決められた目的に照らしてしか下せないことだ。試験に受かる、仕事に就く、お金をかせぐ。目的がはっきりしていれば、それに役立つかどうかは判断できる。だが、その目的そのものが、学ぶ前の自分が思いえがいたものにすぎない。学ぶことで目的のほうが変わる可能性は、はじめから計算に入っていないのである。

③ 学ぶことの意味は、しばしば学んだあとになって初めてわかる。ある人は、若いころ、何の役に立つのかわからないまま古い詩を読んでいた。何十年もたって、大切な人を失ったとき、その詩の一行だけが、自分の気持ちを言い表してくれたという。その人自身も、読んでいた当時は、ただ言葉の響きにひかれていただけだったという。詩を読んだ時点では、その「役立ち方」は、だれにも予測できなかった。

④ 学ぶとは、すでに持っている目的のための道具を手に入れることだけではない。学ぶことによって、自分が何を目的とするかそのものが、組みかえられていくことでもある。

⑤ だとすれば、「何の役に立つのか」という問いだけで学ぶものを選ぶことは、学ぶ前の自分の小さな物差しで、学んだあとの自分の可能性を測ってしまうことになる。それで、ほんとうによいのだろうか。

⑥ 役に立つかどうかを考えることは、たしかに必要である。しかし、いまの自分の物差しでは測れないものにこそ、自分を変える力がひそんでいる。学びに向かう者に求められるのは、役に立つかどうかを問う前に、その物差しそのものを疑ってみる姿勢ではないだろうか。

問　――線部「役に立つことから学ぶべきだという考え」とあるが、筆者はこの考えに対してどのように主張しているか。本文全体の論旨をふまえて百二十字以内で要約せよ。

① 要素表を書こう

材料（目印の種類も書く）	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

10　20
30　40
50　60
70　80
90　100
110　120

120字以内（1マスに1字。句読点も1字）

解答と採点表

練習1　評論「手順にならないもの」

解き方

1. **手順1　例の前後を読む**
   ③段落が具体例。前の②段落（ケアではマニュアルが思うように働かない）と、後ろの④段落（同じ言葉が～。ケアにおいて何が正しいかは～決まらない）がまとめ＝両側のサンドイッチ（R02-3）。
2. **手順2　抽象度の高い文をえらぶ**
   ④段落後半「ケアにおいて何が正しいかは、目の前の相手の、その時の状態を抜きにしては決まらない」が、例をもっとも広くまとめた文＝中心。④段落前半は例の直接の言いかえ。
3. **手順3　主張の続き**
   ⑤段落「だから～求められるのは、～ことではない。～ことである」＝主張（R02-1）。例から導かれる結論として入れる。
4. **手順4　言い過ぎに注意**
   「マニュアルは役に立たない」は本文と食いちがう。⑤段落で「出発点にはなる」と言っている。
5. **手順5　文にする**
   例の抽象化（同じ働きかけが相手や日によって助けにも重荷にもなる）→ 中心（何が正しいかはその時の相手の状態で決まる）→ 主張（手順をくり返すのではなく、相手の変化に応じてそのつどふるまいを変える）。

要素表

要素	中身	根拠	入れる？
中心（まとめ）	ケアで何が正しいかは、目の前の相手のその時の状態を抜きに決まらない	④	◎ 入れる
主張（結論）	決められた手順をくり返すのではなく、相手の変化に応じてそのつどふるまいを変える	⑤	◎ 入れる
例の抽象化	同じ言葉が、相手や日によって助けにも重荷にもなる	④	○ 入れる
言い過ぎ	マニュアルは役に立たない（⑤では出発点にはなると言う）	⑤	× 入れない
具体例	介護施設・「おいしいですか」・箸を置いた女性	③	× そのまま書かない

模範解答

模範解答（百字以内）　96字／100字以内

同じ働きかけが相手やその日の状態によって助けにも重荷にもなるので、ケアで何が正しいかは目の前の相手の状態で決まり、手順をくり返すのではなく、相手の変化に応じてふるまいを変えるべきだということ。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
中心:ケアで何が正しいかは、目の前の相手のその時の状態で決まる	4点
主張:手順をくり返すのではなく、相手の変化に応じてそのつどふるまいを変える	3点
例の抽象化:同じ働きかけが、相手や日によって助けにも重荷にもなる	2点
具体例を用いていない・文末が「〜ということ。」	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「『おいしいですか』という声かけで、箸を置いてしまう人もいたということ。」	具体例のまま。設問の条件にも反する。0点。
「マニュアルは、ケアの場面では役に立たないということ。」	言い過ぎ。⑤段落の「出発点にはなる」と矛盾。中心の4点が入らない。
「マニュアルがあれば、だれがやっても同じ結果が得られるということ。」	①段落の、ケアと対比される前置き。0点。

練習2　評論(要約)「「役に立つ」という物差し」

解き方

1. **手順1　主体の確認**
   ①段落の「〜べきだ」は主張表現だが、「という考えは、もっともらしく聞こえる」＝通念の紹介。筆者の主張ではない(R02-2)。――線部は筆者が検討する相手の考え。
2. **手順2　強調・反語・主張の目印**
   ②段落「問題は〜」(強調)。⑤段落「それで、ほんとうによいのだろうか」(反語＝よくない)。⑥段落「たしかに〜必要である。しかし〜こそ」(譲歩→強調)、「〜姿勢ではないだろうか」(婉曲な主張)。
3. **手順3　定義**
   ④段落「学ぶとは、〜だけではない。〜ことでもある」＝筆者の定義(R02-5)。主張の根拠。
4. **手順4　具体例を外す**
   ③段落の古い詩の話は具体例＝「学ぶことの意味は学んだあとにわかる」とまとめる。
5. **手順5　要約の骨組み**
   ②(役に立つかは前もって決めた目的でしか判断できない)→ ③④(学びは目的そのものを組みかえる)→ ⑤(役に立つかだけで選ぶのは、学ぶ前の物差しで可能性を測ること)→ ⑥(物差しそのものを疑う姿勢が求められる)。⑥の「たしかに必要」は譲歩なので主張と取りちがえない。

要素表

要素	中身	根拠	入れる？
主張(結論)	役に立つかを問う前に、その物差しそのものを疑う姿勢が求められる	⑥	◎ 入れる
定義(根拠)	学びは、目的そのものを組みかえる(意味は学んだあとにわかる)	③④	◎ 入れる
強調された問題点	「役に立つ」は前もって決めた目的に照らしてしか判断できない	②	○ 入れる
反語の中身	役に立つかだけで選ぶのは、学ぶ前の物差しで学んだあとの可能性を測ること	⑤	○ 入れる
通念・譲歩	役に立つことから学ぶべき(①)／役に立つかを考えることは必要(⑥)	①⑥	× 主張と取りちがえない
具体例	古い詩の一行	③	× そのまま書かない

模範解答

模範解答(百二十字以内) 107字／120字以内

役に立つかは前もって決めた目的に照らしてしか判断できないが、学ぶことは目的そのものを組みかえるので、役に立つかだけで学ぶものを選ぶと学ぶ前の物差しで可能性を測ることになり、その物差しそのものを疑う姿勢が求められる。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
主張:役に立つかを問う前に、その物差しそのものを疑う姿勢が求められる	4点
定義:学ぶことは、目的そのものを組みかえる(意味は学んだあとにわかる)	3点
問題点:「役に立つ」は前もって決めた目的でしか判断できない／学ぶ前の物差しで測ることになる	2点
具体例・譲歩を主張として書いていない	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「役に立つことから学ぶべきである。」	①段落の通念。筆者はこれを問い直している。本文と逆。0点。
「役に立つかどうかを考えることは必要である。」	⑥段落の譲歩(たしかに)。主張は「しかし」の後ろ。10点中1点。
「古い詩の一行が、何十年後に気持ちを言い表してくれることがある。」	具体例のまま。要約になっていない。0点。

マナビエ
MANABIE

記述の設計図　U02 言いたいことの目印（アドバンス）

© MANABIE　無断転載・複製・改変・再配布を禁じます